

1989年 6月10日

<毎月10日発行>

第120号 4 頁 200円

定期購読料（送料込み）

半年 1500円、1年 3000円

赤旗

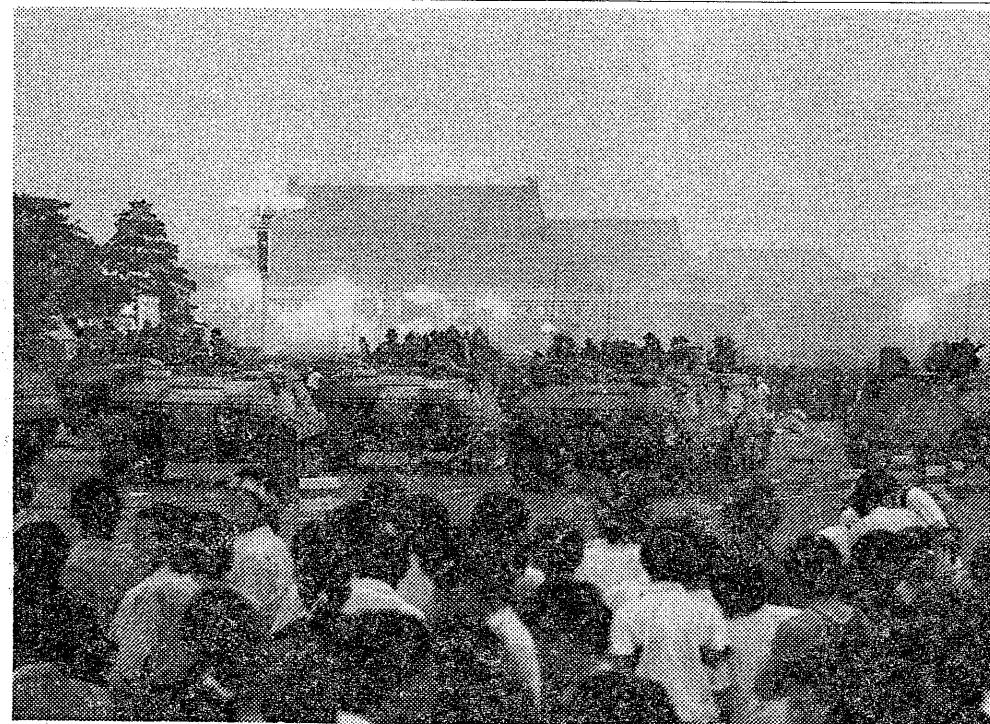
共产党主義者同盟中央機関紙

二面……三里塚・狹山・パレスチナ
三面……韓国情勢
四面……日雇全協第六回大会に向けて
東京都下谷郵便局私書箱180号
(関西) 大阪市港郵便局私書箱40号
郵便振替 東京 9-352128

(1980年2月28日第3種郵便物認可)

大虐殺糾弾！ 打倒鄧小平！

官僚制国家資本主義の転覆へ 中国 内乱的激動の時代に入る



天安門広場を制圧した戒厳部隊の装甲車群（6月4日早朝）

鄧小平政権支える日帝許さず 中國人民と团结して闘かおう

中国人民解放軍の戒厳部隊は、六月四日未明、民主化を求める学生・市民に発砲した。死者は千人を超えると言われ、天安門広場は戦車と装甲車で制圧された。この日の晩の重要会議（首相李鵬の主導）で楊尚昆（國家主席）が、「後退すれば、われわれは金責、ギロチンにかけられる」、「これは多数の人々が死んだ以上、われわれは前進するしかない」と語る。戒厳軍は北京市中心部を武力制

圧したが、これに対し人民は武装して対決し、闘いは中国全土へ広がった。支那階級内の強圧路線と融和路線の対立は、人民の闘いにの眞の内容は必ず逆である。「血をぶられて拡大し、「人民解放」の日曜日」は、中国人民に対して軍の諸部隊間にのみ合ひにまで軍事的暴力を「暴乱平定」支

持でまゝめてテレビに登場し、社会主義制度を覆し、中華人民共和国を転覆させ、ブルジョア共和國を樹立するに至った。「この反革命暴乱を平定する中で人民

の反革命暴乱を平定する中で人民のものではなく、彼らの敵である。そして中国は、六月四日の「血の日曜日」を境に内乱的激動の時代に入ったのである。

この事態をもたらした淵源は、争において、七〇年半ばに至り現代修正主義（国家官僚ブルジョア）が勝利したことによる。現代修正主義（国家官僚ブル

ジー）の開拓を提起して、これが指導したのは毛沢東だった。そこで、貧富の差が大きくなり、社会主義の運営法則を強制する競争

によって、企業の自主権拡大（八四年）が実現され、その結果で多数の農業が崩壊し、失業者が都市へと流入だす。そ

して、工業地帯においても、資本の設定・帝国主義国地主資本の導入と膨大な産業子備軍の形成を

した事態は、社会の中に拡大する競争を蔓延させ、当然、経済の実

労働力を商品化の意識（八七年）等として推進されてきた。こ

れは、党・國家官僚ブルジョアによる経済の資本主義的活性化政策（民営・民活・外國資本の導入）とヨーロッパ文化大革命であった。プロレタリア文化大革命であ

る。だがこの文化大革命は、党・國家官僚ブルジョアの厚い壁とな

る。革命指導部の急進主義による孤立・分散の中で、妥協・終結を余儀なくされていく。そして、七年六月毛沢東の死と「四大組」逮捕を境に、華人民政権の下で走資派が本格的に復活し始め、権力を掌握

していく。七八年十一期三中全会の「改革・開放」路線の確定によって、改革・開放の確立がなされた。これは、党・國家官僚ブルジョアによる経済の資本主義的活性化政策（民営・民活・外國資本の導入）とヨーロッパ文化大革命の否定こそ、彼らの勝利宣言に他ならぬ。

とはいっても、そこには既にその後の現代修正主義・走資派内部の矛盾が胚胎していた。即ち、官僚ブルジョアの利害の保守に重心を置き、それを「四つの基本原則」（社会主義への道、人民民主独裁、中国共産黨の指導、マルクス・レーニン主義と毛沢東思想）の大綱で政治的に表現する。その結果、大きな勢力と民間資本の育成を擴張し、それを「四つの基本原則」（社会主義への道、人民民主独裁、中国共産黨の指導、マルクス・レーニン主義と毛沢東思想）の堅持としている。一方、外資本の積極導入で官僚制国家資本主義経済の停滞を打破して、その急の重心を置き、その急の政治的民主化を實現したいとする

八六年の学生運動の高揚は、前

三

四

五

者だけの闘いに終った。今日は、前著後者が結びつくことによつて体制全体を描かしが、小ブルジョア的改良主義の弱点を突かれてしまつたと総括して見せた。だが、事実の内容は必ず逆である。「血の日曜日」は、中国人民に対して軍の諸部隊間にのみ合ひにまで軍事的暴力を「暴乱平定」支

持でまゝめてテレビに登場し、社会主義制度を覆し、中華人民共和国を転覆させ、ブルジョア共和國を樹立するに至ったのである。

「改革・開放」は、農村における修正主義走資派の台頭に対する反撃を開始した。これは、生産

の修復と、農業生産の活性化による巨大な反撃となつて爆発した。プロレタリア文化大革命であ

る。だがこの文化大革命は、党・國家官僚ブルジョアの厚い壁とな

る。革命指導部の急進主義による孤立・分散の中で、妥協・終結を余儀なくされていく。そして、七年六月毛沢東の死と「四大組」逮捕を

境に、華人民政権の下で走資派が本格的に復活し始め、権力を掌握

して、工業地帯においても、資本の

設立

がなされた。これは、党・國家官僚ブルジョアの利害の保守に重心を置き、それを「四つの基本原則」（社会主義への道、人民民主独裁、中国共産黨の指導、マルクス・レーニン主義と毛沢東思想）の堅持としている。一方、外資本の積極導入で官僚制国家資本主義経済の停滞を打破して、その急の重心を置き、その急の政治的民主化を實現したいとする

八六年の学生運動の高揚は、前

部分の対立である。

5.21 三里塚

強制収用許すな

東京集会に五百

五月二十日、東京・一ツ橋の日本教育館で、三里塚芝山連合宣達反対同盟と、三里塚の土地収用許さない首都闘争などが主催する「収用などをさせないぞ／三里塚・東京集会」が、五百名の参加者を集めて行われた。

午後1時、権力のワゴンが張りついた会場に続々と三里塚闘争に心寄せた仲間たちが詰めかけてくる。この日首都闘行動の仲間たちは防衛隊を組織して、権力の不當検問や妨害を断固許さない。

三里塚闘争の二十三年の歴史を決意を表明して開会式に訴えていくことを要請。その後、反対同盟は空港飛沫など、土地を武器に断固闘いみことの

で始まった。

石井さんはまず、事業認定から二十年経過して未だに完成しな

いよな事業はもはや事業として認められるものではないことを指摘。そしてこのことを大胆に論

に訴えていくことを要請。そのう

で、反対同盟は空港飛沫など、

土地を武器に断固闘いみことの

